

愛知県営都市公園における 民間活力の導入について

愛知県 建設部 公園緑地課 課長補佐 あわ た まさ き
栗田 雅貴

1. はじめに

愛知県には、県営都市公園が11公園あります。このうち、供用面積が50ha以上の広大な敷地を持つ公園は7公園あり、これらの公園は交通アクセスも良く、多くの皆様に利用いただける立地条件を備えています。

この立地条件を活かし、これまでも広域的なレクリエーションの場として整備や各種イベントの誘致、さらに県民協働の推進などにより魅力の向上に取り組んできたところですが、公園によっては、未利用の区域が存在するとともに、施設の老朽化や県民ニーズの変化により魅力が低下した施設があることから、県営都市公園における新たな利活用の検討を進めてきました。

また、平成26年12月に策定した県の第六次行革大綱である「しなやか県庁プラン」でも、県営都市公園において、「民間活力の活用など新しい利活用方法を検討する」ことを位置付け、行政改革の一環としても取り組みを進めてきました。

本稿では、この取り組みの中から県営都市公園内でオープンした2つの事例を紹介させていただきます。

2. 県営都市公園における民間施設の導入について

(1) 「ディノアドベンチャー名古屋」について

「ディノアドベンチャー名古屋」がある大高緑地は、名古屋市緑区にあり、昭和38年に供用を開始した県内でも歴史ある公園のうちのひとつです。現在の供用面積は約100haあり、園内施設は各時代の要請に応じ、ゴーカートのある交通公園、ベビーゴルフ場、野球場、プール、デイキャンプ場や竹林散策路などが整備されています。公園利用者数は年間約170万人で、県営都市公園の中でも有数の利用者数を誇っています。

そのような中、平成26年度に策定された第六次行革大綱の中で、県営都市公園の新しい利活用方法を検討することが位置付けられ、最初に導入を図る公園の検討を進めた結果、他の県営都市公園と比べ、名二環などの道路、JR東海道本線および名鉄名古屋本線などの交通アクセスが充実し、民間事業者の参入が十分見込める大高緑地を選定しました。

事業予定地については、大規模イベントが開催される若草山、野球場、プール、ドッグランなどの集客施設や駐車場が既に整備されているエリアに隣接し、賑わいの創出に効果的であること、一方でナラ枯れによる倒木や竹林の侵入により雑木林

としての存続が危ぶまれ、適切な管理が望まれる区域を対象地として選定しました（図－1）。

平成27年3月に事業対象地や公募条件を示した募集要項を公表し、公募を開始しました。事業者の選定にあたっては、社会資本の事業評価、観光によるまちづくり、財務・会計および景観などの各分野の有識者4名で構成する選定委員会を同年6月に開催し、提案内容を精査いただきました。そして、当委員会において株式会社エヌエーオーが最終候補者として選定されました。同年10月には事業者と愛知県の間で、施設計画やそれぞれの役割、約束事などについて取り決めた協定を締結しました。

その後、事業者が施設整備を行い、平成28年7月に愛知県営都市公園で初めて公募を経て導入した民間施設として「ディノアドベンチャー名古屋」がオープンしました。

施設としては、樹林地内に約900mの遊歩道と、この遊歩道のそばに配置された合計21種の実物大のリアルな恐竜模型、それにセンターハウス(売店、トイレ、事務所)等で構成されています。

入場者は、センターハウスを発着点として遊歩道を巡る形で恐竜探検をしてもらいます。恐竜模型は首や口などが動くとともに吠えるなどし、小さな子供は怖がって泣く子もいます（写真－1）。

オープン以来、遊歩道を延伸したり、恐竜設置

数を順次増やすなど、常に施設改善にも努めていることから、順調に入場者数を積み重ねており、平成30年3月末時点で累計数が25万人を超えるなど、多くの方に楽しんでいただいています（図－2）。

また、将来的には今以上に遊歩道を延長し、自動運転のカートを導入するなどの魅力向上案も検討されています。

(2) 「フォレストアドベンチャー・新城」について

「フォレストアドベンチャー・新城」がある新城総合公園は、愛知県新城市にあり、昭和60年に開園した広域公園で、供用面積は約64haです。陸上競技場などのスポーツ施設やわんぱく広場（さまざまな遊具が設置されている広場）、ニュースポーツ広場などの規模の大きなレクリエーション施設、さらに芝生広場や和風庭園などの憩いの場もあるなど、さまざまな施設が整備され1日ゆっくり過ごすことができる広域公園です。

平成28年2月には、新東名高速道路の豊田東ジャンクションと浜松いなさジャンクション間が開通し、この区間にある新城インターチェンジから当公園が約3kmと近傍にあることから、この開通により交通アクセスが飛躍的に向上しました。



図－1 大高緑地 事業対象地位置図



写真－1 ディノアドベンチャー名古屋
(実物大恐竜模型)



図－2 ディノアドベンチャー名古屋(HPより)

このような状況であることから、同公園のより一層の魅力向上を図るため、民間事業者のノウハウやユニークなアイデアを活かした新たな公園施設を設置、管理運営する事業者を公募することとなりました。

平成 29 年 1 月には事業対象地や公募条件を示した募集要項を公表し、公募を開始しました（図－3）。

同年 3 月には選定委員会を開催し、当委員会による審査によりエバイス株式会社が最終候補者として選定されました。また、同年 5 月に事業者と愛知県の間で、施設計画やそれぞれの役割、約束事などについて取り決めた協定を締結しました。

その後、事業者が施設整備を行い、平成 30 年 3 月に、公募を経て導入した民間施設としては 2 例目となる「フォレストアドベンチャー・新城」がオープンしました（写真－2）。

このフォレストアドベンチャーは、フランスで生まれた体験型森林アクティビティで、日本国内では、現在 28 施設が営業しています。この施設の最大の特徴は、森を森のままで利用することです。したがって、環境への負荷を最低限に抑えることができます。

施設内容としては、樹の上にプラットフォームという木製の足場を設置し、そこに自ら登り、次のプラットフォームへワイヤー等を伝って空中を進んでいき、最後はジップスライドといって、樹の上からワイヤーを伝って地面に滑り降りる形のコースが 5 コースある構成となっています。コース全長は約 700 m、所要時間は約 2 時間で、最も高いプラットフォームは地上 10 m 以上の所にあり、また長いジップスライドは 100 m 以上にもなるなど、ダイナミックで本格的な樹上体験が楽しめる施設となっています（写真－3）。

オープンからまだ間もない施設ですが、既に多くの方に楽しんでいただいています。

3. おわりに

近年、都市公園を取り巻く状況も大きく変わっ



図－3 新城総合公園 事業対象地位置図



写真－2 フォレストアドベンチャー・新城



写真－3 ジップスライド

てきており、昨年度には都市公園法が改正され、公募設置管理制度（Park-PFI）の創設や PFI 事業の設置管理許可期間の延伸など都市公園の再生、活性化を推進するための制度改正が行われました。そのような中、愛知県においても、地域の活性化に資する取り組みなど県営都市公園の利活用への期待は今後ますます高まっていくものと考えられます。

今後も、今回ご紹介した 2 施設のような取り組みを加速させていき、より一層、県営都市公園の魅力の向上を図り、これにより地域の魅力の向上や活性化に貢献していきたいと思っています。